
そして彼は去って行った

リッケン620

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして彼は去って行った

【Nコード】

N2904C

【作者名】

リッケン620

【あらすじ】

旅人のあたし。旅の途中で出会った少年の話。

あたし今、旅しています。

見た事もない土地で、ただただ歩いています。

そこで出会った、彼の話の一つ。

「すいませーん！ ボール取って下さーい！！」

向こうの公園から、健康的に日焼けした少年が一人かけてきた。
あたしの目の前には、土で薄汚れたサッカーボールが転がっている。

「はいよ、僕っ」

あたしは力一杯、サッカーボールを投げつけてやった。
別に怨みはゴマ粒ほどもないが、
冗談混じり、軽いジョークのつもりで。

「わっ！！ 行ってえ〜！」

バシッとボールはジャストヒット。
少年はあたしを睨んで

「そんなに強く投げんなって！ 手が赤くなっちゃうだろあ?!」

ありのまま叫んだ。

その姿はとても可愛らしい。

「はは、ごめんね僕w」

手を合わせ、あたしは日本風なおじぎを試みる。
そしたら少年が

「・・・お姉さん日本人？」

こう問いかけてきた。

あたしは何気ない子供の質問だと思って

「僕は日本に興味があるの？」

質問でかえしてみた。

そして少年は言った。

「ママがニッポン人なんだ・・・」

どこと無く表情が暗い気がしてならなかった。

もしかしたらあたし、いけない事聞いたかな？
でもまずは、この重い空気を何とかしよう。

「あ・・・えつとお・・・ママが嫌いなのかな・・・？」

なんのフオローにもなっていないあたしっ！
しまったと思いつつ、少年の顔色だけを気にした。
だが少年は顔を上げ、笑顔でこう答えた。

「ううん！ ママの事は大好きだよっ！」

正直ほっとした。

だって、本当にまずいと思ったから。
でも一つ疑問。

「じゃあ、どうしてさっきはあんなに暗そうにしていたの？」

あちゃー。

相変わらずいたい女だ、あたしは。
でも少年は、いぶかしむ事も無く言った。

「ママは滅多に家に帰ってこないんだ、何時も世界のどこかに居る
の」

まるであたしのようだと、ちよつと鳥渡共感できた。

けど子供にとってはどうだろう？

お母さんがいなくて、お父さんだけの生活。
きつと寂しいにきまつてる。

「でもね」

少年が目を輝かせて言った。

「ママもパパも、僕のことすっごく愛してくれてるんだ！」

だから、ママが自分の好きな事してても、パパも僕も許せるんだよ！」

すごい。

こんなに強い子が、同じ地面に立っていたんだ。

あたしも、こんなたくましい子供が欲しい。

「そっか・・・温かい家族なんだね」

今日、一番優しい笑顔をしたのはこの瞬間だった。

「もちろんさ！！！」

少年もまた、最高の笑顔で答えてくれた。

そんななか、少年が先ほどいた公園から、少年を呼ぶ声がした。

「おっと、もう皆のここに行かなきゃ！ 怒られちゃうからね」

サッカーボールを持ち直し、少年は公園の方を向いた。

あたしも、また歩き出そうとして、公園とは逆の方向に体をやった。

一歩、二歩。

さよならば、出来れば言いたくなかったから。

もう、少年に声をかけようとしなかった。

「あ、そうだ・・・お姉さん！！」

去ったはずの少年の声に引き止められてしまった。

慌てて振り返り、聞き返した。

「なあに？」

思ったより遠くに居た少年が、ニコツと笑って

「僕は ジヤント・イシカワ・ダウエンポートってんだ！ お姉さん
んは？」

あたしは心地よい風が、足元を通るのが分かった。

「あたしは 寿純しゅじゅんよ！」

少年は ジヤントは満足そうに微笑んで公園に戻って行った。
あたしは歩き出した。

会う事はもうないと、少し涙を目に溜めながら。
だけど二、三歩歩くうちに、気付いてしまった。

(イシカワ……ってあたしの苗字……)

そして、ダウエンポートとは

「大学の時から付き合ってるじゃない……!!！」

彼の苗字。

偶然の産物か、それとも……。

急いで振り返った。

そして

「ジヤントっ!!！」

力の限り叫んだ。

どうしても確かめたかったから。

けれど。

今迄あたしたちが居た場所。

公園も、あの少年も、何一つ無くなっていた。

〈三年後〉

あたし今、旅しています。

見た事もない土地で、ただただ歩いています。

けれど、前とは違うの。

過去のあたしが、未来の息子に出会えた事。

彼のお陰で、ジャントのお陰で、結婚できた事。

もちろん、息子の名前は

・

ジャント・イシカワ・ダウエンポート

きつとあの少年は、過去で、そして未来の

あたしの愛息子。

(後書き)

こんな長ったらしく身の無い話に付き合ってくださいさり誠に感謝申し上げます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2904c/>

そして彼は去って行った

2010年10月11日16時15分発行